



OKINAWA

ぬちぐすい

(社) 沖縄県作業療法士会ニュース 2012年7月 発行

「ぬちぐすい」は、沖縄県の作業療法士のみなさまのいのちのくすり（元気の素）になってほしいという願いです。

- | | |
|--|---|
| 1 … 巻頭言 | 5 … 南風を届けてきました |
| 2 … 社団法人沖縄県作業療法士会
平成24年度前期総会 報告
新入会員オリエンテーション 報告 | 6 … 学術誌『沖縄県作業療法研究～第6号～』
原稿募集について
作業療法士リレーエッセイ |
| 3 … 第10回沖縄県作業療法学会 | 7 … 『魂（まぶい）を結ぶ』～ぶらり中年旅日記～
財務部よりお知らせ |
| 4 … 作業療法フェア
第2回県民健康フェア | 8 … 第3回コーチング 広報部より 編集後記 |

(社) 沖縄県作業療法士会 会長 比嘉 靖 (県立精和病院)

日本作業療法士協会（以下、協会）の総会が5月26日（土）東京都の笹川記念会館にて開催された。協会にとっては初めての代議員制総会でした。沖縄県からは私を含め、3名の代議員が参加した。多くの質疑応答が繰り広げられ、審議は予定時間を大幅に超えたが、大方の議案が滞りなく承認されました。ここで混同してはいけないのが、代議員は沖縄県作業療法士会（以下、県士会）を代表するのではなく、あくまで沖縄県在住の協会会員としての参加ということです。任期の間、沖縄県全体の実情をふまえ要望や意見を協会に伝える責任があります。そのためにも県士会員としての立場も最大限に利用し、皆さんの声を協会に届けたいと考えております。協会と県士会は、認可省庁の違いや発足に至る歴史、全国レベルと地方レベルで活動視点の違いもあり、別の組織です。しかしながら、私たち県士会の定款（団体の運営規則を定めたものです）には、会員資格について協会会員であることが条件だと定めております。作業療法の啓発や作業療法士の技術水準の維持・向上等、多くの目的や事業を共にし、連携していくという意思が反映されたものです。

最近、残念ながら沖縄県からも協会費を収めず強制退会を申し付けられたという方が多数でました。前文のとおり自動的に県士会員資格を失うこととなります。職能団体に所属し、公益事業に寄与することは作業療法士の社会的責任と認識しております。協会、県士会ともに会費で事業を支えており、自覚をもって納入期限の厳守に取り組んでいただきたいと思います。



作業療法川柳

バナナマフィン 上手く焼けるか 楽しみだ

ある日、デイサービスで、ご利用者さんと職員と一緒にバナナマフィンを作っていました。オーブンで焼けるまでの間、楽しみに待つ様子を詠みました。

作業療法川柳を募集します。
みなさんの想いを届けてください！
問合せ・応募は下記アドレスまで！
(社)沖縄県作業療法士会 広報部 E-mail
ot_kouhou@yahoo.co.jp

※総会への出席ならびに委任状提出ありがとうございました。

開催日時：平成24年6月23日 19時00分～19時45分

開催場所：沖縄県総合福祉センター 403研修室

出席会員数：404名（本人出席：23名、委任状出席：381名） 会員総数：632名

議長：嘉数栄司氏（沖縄リハビリテーション福祉学院）

書記：吉岡美和氏（沖縄リハビリテーション福祉学院）、玉城高信氏（宜野湾記念病院）

議事録署名人：神山育子氏（宜野湾記念病院）、上原葉子氏（自宅）



第1号議案 平成23年度事業報告について

平成24年度前期総会議案書に基づき、平成23年度事業報告を報告⇒承認。

第2号議案 平成23年度決算報告について

平成23年度決算報告書に基づき、平成23年度決算について報告⇒承認。

第3号議案 平成24年度補正予算について

平成24年度補正予算報告書に基づき、平成24年度補正予算について報告⇒承認。

その他 日本作業療法士協会強制退会の件

比嘉靖氏より、以下について報告された。

5月31日付での日本作業療法士協会強制退会者が確定し、当士会所属者は54名。

54名のうち、数名は今年度の県士会費まで支払われている。

強制退会確定者には再入会を促していく（今年度の県士会費支払い済みの数名に対しては、今回に限り特例として今年度分のみ会費を払い戻し、再度コンビニ振り込み用紙を送付）。

新入会員オリエンテーション 報告

福利厚生部 桑江 良貴

去る7月7日(土)に、沖縄県社会福祉センターにおいて、「平成24年度 社団法人沖縄県作業療法士会 新入会員オリエンテーション」が行われました。

県内の新入会員50名の参加があり、活気あるオリエンテーションとなりました。

引き続き行なれた新入会員歓迎会も多くの新入会員が参加され、比嘉会長の乾杯に始まり、各研修会代表者からの活動紹介や写真を使った県士会活動の紹介を行ないました。最後には恒例となった施設ごとの新入会員が行なわれ、楽しく交流できる場となりました。



<前田美奈 宜野湾記念病院（沖縄リハビリテーション福祉学院 卒業）>

新入会員オリエンテーションでは、県士会で中心となって動いて下さっている先輩方や同期のOTの皆さんと顔を合わせることができたり、県士会の活動内容を知ることができ、とても良い機会となりました。県士会を通して研究会で学ぶ事や、他施設のOTと関わる事、市民の皆様には作業療法を知ってもらえる事ができるため、多くの行事に参加していきたいと思いました。また、県士会の活動はボランティアで行って下さっている事に驚き、ありがたい事だと感じました。今後は作業療法士として成長し、人の役に立てるように頑張っていきたいと思っております。新入会オリエンテーションを開催していただき、ありがとうございました。

<大城健三 宜野湾記念病院（琉球リハビリテーション学院 卒業）>

新人会員オリエンテーションに参加して、県士会がどのような活動をしているのかを知るうえで参考になりました。私自身まだ研修・勉強会などには、参加したことはありませんが、情報を集めてできる限り参加し、知識や考え方など、日々学ぶ姿勢をもちながら成長していけるように努め、これらを臨床の場などで活かしていけるように、患者様へ本当の意味のある作業が提供できるようにしていきたいと思っております。また、私を含め新人にとっては、同・他分野で働いている方との相談や交流の場として、よいきっかけになるのではないかと思います。

以前、広報誌において報告させていただいた、第10回沖縄県作業療法学会まで70日を切り、徐々に学会開催に向けた不安と緊張がでてきております。

本学会はテーマを「かえていくもの・かえないもの ～つながるチカラをカタチに～」と掲げ、新しい学会内容も踏まえた準備に取り組んでおります。その中でも企画ものとして①セミナー、②特別企画、③ランチョンセミナー、④市民公開講座の準備をすすめております。セミナーは4つの会場で希望する研究会や団体にそれぞれが企画運営をしていただく内容となっております。既に団体等はほぼ決定しておりますので、近々ご紹介できると思います。また特別企画では作業療法を利用したことのある方の生の声を聴くことのできる内容で準備しております。作業療法が一方向的に進められるものではなく、共に歩む道のりが重要だと改めて気づかされる機会になると思います。ランチョンセミナーは少し遊び心を持った企画です。作業療法を紹介するムービーを募集しそのコンテストを企画しております。優秀作品は本学会にとどまらず、今後にも活躍の場があるかも……。そして市民公開講座では、県内で活躍される精神科医師を3名も招き「3名の Dr が語るうつ病 ～何が新型でなにが旧型?～」と題してご講演していただきます。様々な視点からうつ病の情報を聴ける大きな機会となります。会員のみではなく、当事者や、医療関係者も参加は可能ですので、多くの方に参加していただきたいと考えております。

そして最大の企画と言っても過言ではない懇親会「大人の学芸会」ではテーマを本気で実践できる機会として考えております。「つながるチカラをカタチに」会員同士のつながりを広げていく事を大きな目的にしております。参加者も募っており、徐々に内容も濃くなってきております。多くの方の参加をお待ちしております。

尚、学会の事前申し込みが始まっておりますので、学会ホームページ等でご確認の上お早めに申し込みをしていただけたら幸いです。

多くの方のご参加をお待ちしております。

第10回沖縄県作業療法学会 公式ホームページ

<https://sites.google.com/site/okinawaot10th/home>

広報誌7月号に同封しました

参加事前登録について(お知らせ) もご確認ください!



作業療法フェア

事業部 波多野 晶子

10月14日(日)サンエー西原シティにて、毎年恒例の「作業療法フェア」を開催する予定です。

例年、広く一般の方々に「作業療法」「作業療法士」を知っていただくという目的のもと開催してまいりました。簡単な手工芸の体験、高齢者体験、幻覚体験といった体験ブースと、現場で働く作業療法士や対象者様の生の声をまとめたパネルの展示などを行ってきました。毎年多くの方に足を止めていただき、大盛況の中終える事が出来たので、とても意味のある活動だと思っています。

今年は例年の内容をもう一度検討し、参加される方々の心に「作業療法」「作業療法士」がより残るよう、そして運営する事業部員にとってもより楽しい、やりがいのあるものにしていこうと、現在事業部員みんなで模索中です。会員みなさんの中で「こんなことをやってほしい」「こんなことをやるなら参加したい」などのご意見やアドバイスがあれば、ぜひ事業部までご連絡ください。

また、当日の運営委員もこれから募集することになると思います。過去に参加した会員の方、初めてだけ参加しても良いと思っている会員の方、ぜひ事業部員と一緒に作業療法フェアを盛り上げていきませんか？興味のある方は下記までご連絡ください。

連絡先

事業部 波多野 晶子 (ごきげんリハビリクリニック)

TEL : 098-933-5515 E-mail : accotbry@yahoo.co.jp

第2回 県民健康フェア

事業部 波多野 晶子

2年前に初めて開催された、なごみ会主催県民健康フェアが8月19日(日)コンベンションセンターにて開催されます。

県内の医療・福祉にかかわる多くの団体が協力して作り上げるイベントです。OT 士会も2年前同様PT・ST 士会とともにブースを設けます。今年は自助具の展示、パネル展示、進路相談を予定しています。他のブースでも様々な体験や展示があり、多くの方に足を運んでいただきたいと思います。会場外にはドクターヘリの展示、ゆうりきやあによるコントと各ブースの紹介などもあります。

みなさんの職場にも案内のポスターが送られてくると思いますので、多くの方の目に触れる場所へ、ぜひ掲示してください。

第2回県民健康フェア

日時：平成24年8月19日(日) 12:00~16:00

場所：コンベンションセンター 展示会場



「南風（ばいかじ）を届けてきました」

去る、6月15日に第46回日本作業療法学会が宮崎県のシーガイアで開催された。久しぶりの再会に笑顔で握手をする者、発表演題についてセッション終了後も熱く議論を交し合う者、発表を前にして緊張の面持ちで原稿を読み返している者、様々な人間模様がそこにはあり、会場は熱気を帯びていた。そういう雰囲気とは少し違うものを醸し出したかりゆしウェアの集団もいた。そう我々沖縄軍団である。スーツの参加者がほとんどだけに、余計に目立つ。会場の痛い視線を感じないように平静を装う。ついにはクバ笠を持参している者まで現れた。もう完全に立ち位置を見失った集団だ。

実はそこまでの理由があった。さかのぼること1ヶ月半、我々は今都心のパイカジで精神科領域のOTを中心に集まり、酒を飲んでいた。話題は自然と2014年に開催されるWFOTについてになり、全世界からOTが日本に来るのだから、これは沖縄のOTとして芸能で歓迎の意を示さねばならないという話になり、「一刻も早く山根実行委員長にそのことを伝えなくてはならない。みんなで宮崎学会に行こう」という流れになったのだ。

そういう流れで学会に参加はしてみたが、さすがに学会会場で三線やクバ笠を持ってウロウロしては、つまみ出されるので一応クロークに預けておいた。レセプションでは、山根寛先生、小林正義先生、北山順崇先生等の全国理事の先生。OT連盟の副会長である比留間ちづ子先生、が「今日は三線持っていないの？」と優しく声を掛けてくれた。「いやー実は持ってます」というと山根先生が自分のスピーチの時にBGMをやってくれという事になり、あれよあれよという間にステージに立っていた。山根先生の宣伝の後に5分程時間を頂いて、オジー自慢のオリオンビールとかちャーシーをし、そこそこの盛り上がりを出した。その後、山根実行委員長と本題について話すことができた。山根実行委員長もだいぶ乗り気で「よし、全国のOTで芸能を披露して世界のOTを迎えようじゃないか」という事になった。全国の中でも芸能王国沖縄がその重要な位置を占めることは間違いないことである。2014年までにクオリティーの高い芸能を披露できるように、沖縄県作業療法士会員が一致団結して取り組むことが求められる。今後、泰団長を中心に芸能OTグループを募る予定である。その際には多くの方に協力して頂、WFOTを成功に導いて欲しい。日本のOTはすごかったと言われるかどうかは我々の出し物にかかっているのである。ドギモを抜くくらいの圧倒的なパフォーマンスで世界を魅了しましょう。



2012年7月15日 仲地宗幸 (オリブ山病院)



今年度も学術誌『沖縄県作業療法研究 ～第6号～』発刊に向け、原稿募集開始しました。皆さんは投稿に向け、データ収集等進めていますか？学術誌は作業療法士の治療成果や新たな知見等を共有する重要な書籍になっています。日頃の成果を沖縄県士会員だけでなく、全国の作業療法士へ発信して行きましょう!!

実は、この学術誌、『ISSN 登録』しており、認定作業療法士取得に向けた要件にも活かされます(詳細は日本作業療法士会生涯教育制度手帳を参照下さい)。さらに朗報、第10回沖縄県作業療法学会でポスター発表や口述発表後にデータ収集又は考察をさらに深め投稿頂く事も十分可能です。ぜひ、自己研鑽の一環として活用して下さい!!

【投稿手続きおよび郵送先】

提出書類：本原稿1部とデータ(CD-R)をお送り下さい。
なお、原稿編集する際に連絡をとる場合がありますので、別紙に氏名、所属、連絡先(メールアドレス)を記載し、同封して下さい。

投稿期限：平成24年12月28日(金)17:30(厳守)

【問い合わせ先】

宜野湾記念病院 リハビリテーション部

OT室内 県士会学術部 石川 丈

TEL：893-2101 FAX：892-8863

作業療法士リレーエッセイ

沖縄県の作業療法士を紹介します。第7回は、ノーブルメディカルセンターの田場亜生乃さんです。

こんにちは。私は「ノーブルメディカルセンター」で働いています、OT4年目の田場亜生乃と申します。重度認知症デイケア「にらい会」で働いて同じく4年目に入ります。当院でのOTの分野は他に、精神科DC、DNC、病棟(認知症、精神科)、訪問があります。

私たちにらい会には、本部・今帰仁・名護からの利用者様が通所されています。働いているスタッフも地元の方が多く、利用者様やご家族様と顔なじみだったり地域とのつながりが密です。笑顔あふれ、アットホームな雰囲気を感じます。日々、人生の大先輩である利用者様からは、生活の知恵・沖縄の文化、歴史、方言など色んなことを教えて頂いています。

人生の大先輩として敬うと同時に、小さいころからおじいちゃんおばあちゃん子である私にとっては、利用者様の笑顔・温かさからは癒しやパワーをいただいております。幸せに感じています。利用者様の生活の一部に、同じ時を過ごして関わらせて頂けることに感謝しています。

そして、関わらせていただくなかで、私の心には、色んな想いがよみがえり、重なります。特にご家族様から、「こんなに笑うんだねえ。家ではこんなって笑わんさ〜。」「あい!こんなことできるんだね〜!」という言葉聞いた時です。それは、私の祖父が健在だったころ、デイサービスを利用してたことがあり、その時に私が思った「スタッフさんいいなあ…じいちゃんが普段家族には見せない色んな一面が見れていいなあ。この時と一緒に共有できているんだなあ」と…家族側として思った想いです。

私は、●日々の生活(作業・活動・作品)を通して見せてくださる利用者様のたくさんの素敵な魅力を、ご家族様と共有できる機会・時間を大切に…●感謝の気持ちを忘れずに…、利用者様・ご家族様が笑顔多く充実した日々を過ごせますよう、今後とも励んでいきたいと思っております。



田場亜生乃さんからのバトンは誰の手に!? 次回をお楽しみに!

『魂(まぶい)を結ぶ』 ～ぶらり中年旅日記～

広報部 泰 真実

私は高齢者の分野で沖縄戦を生き抜いてきた方々を対象に作業療法を行っています。「どこの生まれ、どこで終戦を迎えたのか？」と面接で尋ねることがありますが、どちらもその方々の人生に大きな影響を与えています。話を聞く中でこの方々が生きてきた歴史について興味を持つようになりました。今回、映画「天国に一番近い島」で知られる仏領ニューカレドニアで、日本人移民 120 周年祭があり、各地で式典が催されました。私は 7 月 1 日～6 日、職場の同僚 OT と一緒に沖縄からの訪問団に加えて頂き、現地の方々と交流してきました。訪問団は毎夜、八重山の民謡、舞踊を披露。私も俄か練習でマミドーマを踊りました。この島ではニッケルの大きな鉱脈が見つかり、日本や沖縄から移民、1919 年までに合計 5575 名が移り住みました。その後 1941 年に始まった戦で、日本人は強制収容、現地の妻や子供には説明もなく送還されたため、残された家族は一家の大黒柱を失い、苦難を強いられたとのことです。彼らは「親や国に捨てられ」育ちました。2 世、3 世の現在、日本に対する思いも薄れ、「何をいまさら」という感だったとか、引き裂かれた歴史やルーツをたどることで「さまよっていたアイデンティティをみつけた」という感想を聞きました。3 世らの合唱「ふるさと」にはみんな涙しました。沖縄からの訪問団は 50 名。一人の八重山出身者が島民の話聞いたことがきっかけで実現しました。私たちの力は小さいですが作業療法の面接の中でも、拾い集められた記憶の断片はこのように新しい家族の物語をつなぐことがあるかもしれません。ただ聞いているだけで記録も残らないのなら、その方々の生きた存在も失われていくそんな気がします。特に戦の痛みの記憶の伝承は、これからの沖縄の未来に影響を与えます。そういう意味で作業療法士も持ち場立場でできることは小さくありません。華やかな観光地を目指す両島と、生きてきた「痛み」の存在の重要性を改めて考える訪問でした。来年は台湾の方々と一緒に踊るために準備します。興味ある方一緒にどうですか？さぁマミドーマ！



財務部よりお知らせ

コンビニ納入をご利用下さい！

県士会費納入について

沖縄県作業療法士会では、学術技能の向上を目的に学会や研究会・講演会の開催や、学術誌の発行などを行なっております。これらの運営は、みなさまからの会費によって成り立っております。また、県士会主催の学会・研究会などについては、当該年度までの会費が納入済みであることが参加の前提になります。個人、または全会員に対し意義ある県士会としての円滑な運営がなされるためにもみなさまのご協力が必要です。

納入について現在、各会員のもとに県士会事務局よりコンビニ払い込み票を送付いたしておりますので、ご利用下さい。尚、コンビニ納入の場合振込手数料の会員負担はありません。また併行して銀行での振り込みも可能です。銀行振り込みを利用される場合は下記口座まで宜しくお願いいたします。

※納入額が不明の場合は財務部までご連絡ください。

※振込み名は会員名でお願いいたします（複数でのお振込みの場合は FAX にてその旨をご連絡下さい）。

※ご質問等ございましたら下記の連絡先にお問い合わせ下さい。なお、電話対応には時間の制約がございますので、

FAXでのお問い合わせもご利用していただきますようお願い致します。何卒ご配慮をもってご了承賜りますようお願い申し上げます。

振込先 : 琉球銀行 宜野湾支店
 口座番号 : 493549
 口座名 : 沖縄県作業療法士会

財務部 ^{やましろ たかし} 山城 峻 (沖縄リハビリテーション福祉学院)
 TEL (098) 946-1000
 FAX (098) 946-1999



人は、強みを使って活動しているときに最も生産性が高く、強みは人の行動の原動力となります。コーチングは、クライアントの目標達成に向けて、より早く、より高い成果を上げることを目的としています。強みをつかうことで目標達成のスピードは速くなります。

強みをいかせる環境を見出す

強みはいかされてこそ、効力を発揮し、生産性は上がっていきます。どういう強みがどんな状況に機能するのか、状況と強みが上手く適応した際に、最も成果が上がり、強みが発揮されます。つまり、強みには、それがいかされる場、強みをいかしていく環境が必要です。

クライアントの強みに焦点をあて、その強みがいかされる環境について、クライアントと考えてみましょう。

「あなたの現在の目標には、どんなものがありますか？」

「その目標を達成するためには、どんな知識やツールが必要ですか？」

次回をお楽しみに！

監修：島袋十史樹（しまぶくろとしき）プラス式コーチング

広報部よりお知らせ

(社) 沖縄県作業療法士会のホームページ

<http://www.okinawa-ot.net/>



研修会案内のニュース・WEB サイト掲載

(社) 沖縄県作業療法士会ニュースおよび沖縄県作業療法士会 WEB サイトに研修会案内などの掲載を希望する場合は、記事原稿を添付し、広報部 E-mail まで送信ください。尚、記事のフォント・掲載形式は広報部編集担当が調整致します。

- ※ ニュースの原稿は発行前月15日までにお送りください。(平成23年度は4月、7月、10月、1月の4回を予定)
- ※ WEB サイトへの掲載は、随時受け付けております。
- ※ 掲載費用は必要ありません。
- ※ 営利目的の割合が大きいと判断された場合等、掲載不適切と判断された場合は、掲載をご遠慮いただくことがありますのでご了承ください。
- ※ 研修会案内の掲載、記事の投稿、ご意見、ご要望、ご感想など、下記アドレスまでメールください。

(社) 沖縄県作業療法士会 広報部 E-mail ot_kouhou@yahoo.co.jp

編集後記

長女は、初めての夏休み。私が勤務しているデイサービスのお手伝いをしたり、いとこ同士で図書館に行って宿題をしたりしています。デイサービスのご利用者さんは、子どもたちと交流することで元気になると話してくれました。この経験は、子どもたちにとっても良い効果が期待できると思います。子どもたちの未来が楽しみです。

(社) 沖縄県作業療法士会 広報部 理事 田村浩介 (いきがいのまちデイサービス) 広報部長 久田直希 (琉球リハビリテーション学院)
部員 泰真実 (北中城若松病院) 原田伸吾 (ごきげんリハビリクリニック)
部員 仲間知穂 (琉球リハビリテーション学院) 田中裕子 (いきがいのまちデイサービス)

事務局：(社) 沖縄県作業療法士会 〒903-0804 那覇市首里石嶺町 4-373-1 沖縄県総合福祉センター内

Tel・Fax：098-988-3711 E-Mail：oki_ot_a_kugai@yahoo.co.jp

事務局長：久貝 明人 (カガイアキト) 宜野湾記念病院 リハビリテーション科

〒901-2211 宜野湾市宜野湾 3-3-13 Tel：098-893-2101 Fax：098-892-8863

発行人：比嘉靖 (会長) 編集人：田村浩介 (広報部担当理事) 印刷：丸正印刷株式会社